



紫外線をカットする特殊な照明下にある反応釜

よしむらゆかかく
吉村油化学株式会社

新たな「顧客満足」を創出 乳化技術を中心に

- 海外発注可
- 納期相談
- 企画力有
- 自信
- コスト相
- オンリーワン技術
- メイドインジャパン
- 試作可
- 小ロット
- 産地直対

業務内容
ニスに合った乳化技術で
最先端製品を支える

高い技術力を活かし、樹脂エマルジョン、繊維用処理剤、金属表面処理剤、インク・顔料分散剤、各種界面活性剤等の開発、製造、販売を手掛ける吉村油化学。その技術はガラス繊維製造に重要な役割を果たし、電子基板、強化プラスチック等の強度を高める際にも用いられる。最先端の化学技術や新素材の開発・製造に欠かせない縁の下の力持ちとして、同社の技術がものづくりを支えている。



乳化釜内部の様子

強み
安定的で作業効率が高い
小粒子エマルジョン技術

「エマルジョンを工業的に使うには、主機能の満足と低コスト、効率化が課題」と福田社長。油性物質の粒径を小さくして長期的な安定を保ちつつ、作業効率を上げるために低粘度にする必要があるのだ。同社は、一般的に数千〜数万 mPa・s のエマルジョンを、数千〜数千 mPa・s にすることに成功。高品質と高効率を満たす製品を提供している。

さまざまな場面で活用されるエマルジョンは、ユーザーが望む仕様も多岐にわたる。同社では顧客との対話型研究開発を実施。少量多品種の生産で細かな要望も満たすオーダーメイド生産を実現している。

今後の展望
塗料と接着剤の「水性化」
で環境問題に貢献

エポキシ樹脂エマルジョンを硬化剤と共に使用することで、接着剤や塗料として用いることができる。同社の技術を用いれば、塗料や接着剤の水性化が図れるという。これまで、塗料は有機溶剤に溶かして使用していた。ただ近年、有機溶剤は人体や環境に悪影響だと脱溶剤化の推進、さらに水性化へと舵を切りたいとの要望が高まった。同社では塗料や接着剤の水性化に取り組み、品質的にもコスト的にも、業界の基準を満たす製品の開発に成功しつつある。現在も一部製品に同社のエマルジョン技術が採用されており、今後もさらなる研究と技術開発により、業界全体の水性化を担うとの展望を持っている。

人材育成
充実の社内制度と風通しのよさで人材を育成

積極的な人材登用と育成も同社の特長。毎年、新入社員を採用して技術継承に取り組んでいる。また全社員の25%が研究部・技術開発部に所属する等、研究開発に注力し、同社の強みをさらに強化している。社員の声やアイデアを製品や経営に活かす「改善提案制度」、自己啓発や新たなスキル獲得のための「外部教育奨励制度」、さらに各人の能力アップと社内に必要なスキルを洗い出すための「人材スキルマップ」を活用する等、社員が生き生きと能力を発揮できる機会と制度が多数用意されており、同社のステップアップにおける原動力ともなっている。

COMPANY PROFILE

吉村油化学株式会社

ISO 9001



大正11年の創業以来、時代に即した技術を追求してきました。製品、技術、環境や周囲への配慮、時代の流れに沿ってきたから今があるのだと思います。お客様の言葉に耳を傾け、要望に応え続けてきた結果でもあります。当社が掲げるのは「挑戦と創造の心」。その言葉通り、研究や技術開発に力を注ぎ、社内の意見を柔軟に取り入れて、新たな顧客満足を創出しています。

「挑戦と創造の心」を掲げ、時代が求める
製品開発を企業活動の基礎としています。

代表取締役社長 福田 正博さん



■主な事業内容

樹脂エマルジョン、繊維用処理剤、インク・塗料用添加剤、金属表面処理剤、各種界面活性剤の開発・製造・販売等

■主な取引先（納入先）

ガラス繊維メーカー、合成繊維メーカー、インク・塗料メーカー、金属加工メーカー、総合化学メーカー等

住所 / 〒561-0815
豊中市豊南町南5-1-1
TEL / 06-6334-3331
FAX / 06-6334-1323
創業 / 大正11年3月
設立 / 昭和24年6月
資本金 / 5,120万円
従業員 / 42名

<http://www.yoshimura-oc.co.jp/>